

平成23年度 第1回 CCC 社会学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時：平成23年4月18日（月）午後5時から午後7時まで

II. 場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：奥村委員、津田委員、土屋委員

（事務局）井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容：各委員による授業モデル案に関する報告とそれぞれに関する検討が行なわれた。

(1) 学士力目標1に関する授業モデル案

- ・昨年度12月（第4回）案と基本的に変わらず
- ・社会学グループの方向性に合致しているはず
- ・課題解決型、協働型、対話型の授業モデル案である
- ・情報と知識の違い（たとえるならば、データベースと物語の違い：情報を構造化してはじめて知識となるということ）を理解させるのがねらい
- ・他の授業との連携（特に導入教育との相互のやりとり）がカギ
- ・大学院生をTAにすることを想定

(2) 学士力目標3に関する授業モデル案

- ・前回は1回の授業のできる案を考えたが、今回は4年間でできる案とした
- ・到達目標3は身近でなく敬遠されがちなので、動機づけが重要
- ・「1年次＝学び」→「2年次＝社会学的想像力」→「3年次＝社会学の理解」→「4年次＝調査」とステップ化・構造化している
- ・映像アーカイブ、資料アーカイブ、成果アーカイブの3者が必要
- ・「近視眼」的にならないことを歴史から学ばせる意図

(3) 学士力目標5に関する授業モデル案

- ・今回の授業モデルは、「講義・演習・実習」の枠組みを越えた特講のような位置づけをイメージ
- ・基礎演習や1～2年次講義科目との連動を試み、単年度ではなく、3年分を通したモデルを構想する
- ・調査における「理論仮説→作業仮説」というステップになぞらえて、基本講義科目が

提供する「理論フィールド」と、問題の解決に向けて実際に検討する場としての「作業フィールド」を想定する

- ・ 教員は、「講義・演習・実習」と複数の形式をトータルにリードする必要
- ・ フィールド情報の所在を管理（確認と更新）する必要
- ・ 考察（調査）結果のフィードバック先との双方向性を構築（担保）する必要

（４）検討

- ・ 授業モデル案をまとめる方向性として、「ねらい」には背景も明記する。
- ・ 「計画」はシラバスではなく、授業の「つくり方」（設計思想）を提示して、卒業後に「使える」能力の育成につなげる。
- ・ 基礎演習の質疑応答は、単なる「質問」よりも「インタビュー」のような形式にしたらどうか。
- ・ 中学校の学習指導要領と比較すると、「大学でしかできないこと」こそが、専門性に通じることがわかる
- ・ 現場へのフィードバックは「ふりかえり」の場としても重要であり、その意味で「中間発表」も考慮に入れたらどうか
- ・ 現場からのフィードバックこそが、学生に「達成感」を体感させるのではないか
- ・ 大学は「失敗が許される場所」ひいては「失敗するための場所」、「失敗による学びを実現する場所」と言い換えることもできるのではないか

V. 次回までの日程等

- ・ 5月中に授業モデル案を添付して web アンケート調査
- ・ 6月にアンケート結果を踏まえて委員会で検討
- ・ 評価の手法も意識して授業モデルを再整理する

以 上